

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)	良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・東京オリンピックが近づいて景気が良くなっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・夏休みに入って余暇にスポーツイベントに参加する人が非常に多くなっている。それに比例するように、バスツアーへの申込や貸切バスの依頼、宿泊申込などの取扱量は、前年の倍近くある。懐事情に余裕が出てきていると思われる。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・今月半ば以降、受注量・金額とも上昇している。例年暑い時期は動きが鈍いが、今年は調子が良い。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	販売量の動き	・お中元商品の多様化は進んでおり、こだわり商品、高額商品の動きが良い。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・ボーナスやお中元需要もあるので7月前半は売上が良いと見込んでいたが、後半になって夕方から来店する客は、購買意欲があり、給料日前でも売上が良いので景気は良くなっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・消費税増税の反動減が少し収まってきている。買い控えムードも少し薄れている。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・3か月前の消費税増税直後には買い控え、出控えが顕著に現れていたが、今月あたりからは、買い控えや出控えが緩和して需要回復がみられる。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・中小小売店、飲食業の中には売上が増加する店舗が出てきており、景気は良い方向へ向かっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は依然として前年を下回っているが、購買意欲は高く、1人当たりの買上点数が増加している。このため売上額は前年を上回っている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・単価は若干落ち着いてきている。客の慣れもあるが、消費税増税後の厳しい状況であった4月に対しては若干上がっている。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・天候に恵まれ、客足は平均的な数で落ち着いている。スイカ、ぶどうや桃など単価の高い旬の商品の購入がみられる。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・販売量は消費税増税の直後よりは上がっているが、今一つ伸び悩んでいる。
		スーパー（営業企画）	お客様の様子	・全体の来客数は伸びていないが、1品当たり単価の上昇による客単価の伸びがみられる。買上げ点数は伸びていないので、客の購買意識として、無駄な物は買わずに良い物を吟味して必要な物には金をかける傾向にある。
		衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・少しシーズンが先の物が動き始めている。消費税増税後の反動減も弱まってきている感じで、商品が売れはじめる兆しがある。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・梅雨明け後のエアコンの売行きは良いが、月前半の実績が影響し、7月全体では厳しい状況になっている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・4月ごろと比べて確実に消費マインドは高まってきている。消費税率も今となっては8%が当たり前であり、購買意欲を下げる原因ではない。新型車投入も購買意欲を上げている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・全体的な流れと販売量の動きを含めて、少し動きが良くなっている。客の問い合わせも増えている。
		その他専門店〔貴金属〕（営業担当）	来客数の動き	・下見の客が増えている。
		高級レストラン（役員）	来客数の動き	・客単価は前年同期並みに戻りつつあり、客足も前年を上回ってきている。都心部の店舗を中心に、法人利用が活発化している。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・消費税増税後の反動減からようやく脱却したという印象である。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・ビジネス目的の外国人旅行者の動きが良い。日本人客の観光需要は価格にシビアで、旅行会社経由で交通手段が付いた安いパッケージ商品が中心である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月はボーナスシーズンでデパートの客が多く、大相撲名古屋場所の客、野球観戦の客もある。猛暑の影響で飲み屋街やビアガーデンなども客が多く、今月下旬からずっと夜の客も多く業績も好調である。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売量が増加したが、インターネット通信機器の処理能力が向上したことにより、投資コストが削減できている。		

	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客に消費税増税が受け入れられてきたのか、思っていたより早く影響がなくなっていると感じる。3、4月が繁忙期であり、今は動きが落ち着く時期ではあるが、それほど悪くない。
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・客単価が伸びないので、販売量の増加につながらない状況がずっと続いている。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・全体的にみると景気が良くなっている会社もあるようだが、販売量からみると売上のアップしたところ、ダウンしたところの両方があり、ほぼ変わらない。売場によっては良い場所もある。
	一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税以降、売上が良くなる気配がない。
	一般小売店〔電気屋〕（経営者）	販売量の動き	・販売単価は前年と変わらないので心理的には楽だが、消費税増税後に落ち込み分が元に戻っているだけという印象である。
	一般小売店〔薬局〕（経営者）	来客数の動き	・景気が上向き気配はない。気候も影響している。客は本当に必要とする物しか買おうとしない。大手薬局チェーンでは決算が良いように見えるが、薬が売れているのではなく、雑貨や食品が売れており、院外処方箋の安定的な売上があるため、業界全般では厳しい状態である。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年は伊勢神宮の遷宮効果で平年の2倍近い客でにぎわったが、その効果は5月の連休でほぼ終わり、現在は余韻が若干残っている状況である。
	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・客が二分化しており、業況の良い客は贈答品をたくさん贈るが、良くない客は贈る相手を絞っている。全体からみると変わらない状況だが、縮小する客の方が多く販売量は減っている。一部の客からの収益に支えられて、一見上向いている状況にも見えるが、全体的にはまだまだ縮小している状況は3か月前と変わらない。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・遷宮が一段落し、ピークは過ぎたもの、平年に比べて、まだ販売量は高止まりしている。
	一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・まだまだ飲食店への来店客は少なく、特に月曜から水曜日にかけての客足が良くない。
	一般小売店〔惣菜〕（店長）	お客様の様子	・来客数が少ない。
	百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・台風による影響があるものの、特徴的で付加価値がある商品の売行きは好調である。セール品の需要は低くなっており、良い面と悪い面が相殺される形となっている。
	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・夏休みに入ったが思ったより来客数は増えていない。暑かったり雨天であったりで、客足は今一つである。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響は4～6月と比べれば弱いはまだまだ残っており、景気の足を引っ張っている。夏物の百貨店のバーゲンをも、量販店の価格と変わらない程の価格で販売しているので、一段と競争は激しくなっている。新しいショッピングセンターでも平日は月末にもかかわらず量販店、専門店にはあまり客が入っていない。昼食時のレストラン街も競争が激しく安価なランチメニューが中心になっている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価は上昇しているが、来客数が低下している。また買上点数も低下している、豚肉や野菜の価格高騰による影響で売上高に変化はないが、実質的な購買は低迷している。
	スーパー（店員）	単価の動き	・このところ続いている状況であるが、商品1点当たり単価が安ければ良いというのが、客の価格に対する考え方になっている。
	スーパー（販売促進担当）	お客様の様子	・今月も相変わらず前年比91%で推移している。
	コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・自店の来客数の状況から変わらないと判断する。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年の7月は猛暑で来客数が増えたが、今年の7月前半は気温が低く来客数が伸び悩んでいる。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・梅雨明けが遅かったこともあり売上は低調である。相変わらず来客数の前年割れが続いている。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・暑さの割には、販売量、来客数ともに伸びていない。消費税増税の影響なのかは分からないが、売上は低迷気味である。	

コンビニ（店長）	来客数の動き	・繁華街に来る客の影響を受けるが、以前とほとんど変わっていない。週末に多少混む程度で良くない。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・バーゲン案内状を出したが、馴染み客が引き続き来店して購入するケースが多い。このところメーカーを開拓していなかったため商品補充が難しかったが、来店客は何か購入してくれるので、在庫を整理するというスタンスでみれば有り難い状況である。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年と比べると暑い日が少なくエアコンと冷蔵庫の売上が悪いが、それ以外では特に変化はない。
乗用車販売店（営業担当）	単価の動き	・全体的に仕事の単価が、以前より低下している。
乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・来客数が格段に少ない。外出を控える傾向が強くみられる。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4月からずっと悪い状態が続いている。客とのいろいろな話の中では、政治に対する不信感が一番強い。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年の販売台数の90%で推移しており、消費税増税後は販売台数が伸び悩んでいる。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・消費税が増税となった4月頃と販売量は変わらない。
その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・客は自分に必要な物、あるいは売り出しやポイントの多い日など、買うべき日をよく見極めている。
その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・消費税率引上げのショックも一段落している。
その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	販売量の動き	・売上高は前年対比4.2%マイナス、来店客数は同じく0.9%のマイナスで、消費税増税の影響がまだ若干あると思われる。
一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・季節的な要因の可能性もあるが、来客数は変わらないものの客1人当たりの販売量が少し増加している。
スナック（経営者）	来客数の動き	・客の話からは、企業の景気も上向き傾向で、夏のボーナスもアップしたところが多いようである。冬のボーナスもアップするという話は聞くが、楽観的に受け止めている人は少ない。個人の生活は以前よりは安定しているようだが、繁華街ではまだ厳しい状態にあるので、なかなか売上は増加しない。
旅行代理店（経営者）	それ以外	・輸出関連企業は総じて好調のようだが、内需関連サービス業にまではその波は届いていない。タクシーに乗る度に運転手に景気について聞くが、社用費が回復していないとか、宴会は一次会で終わりなどといった話を耳にする。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・売上は前年に比べて少しマイナス気味である。
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・秋以降の商品の問い合わせは多いが、単価アップの様子は少ない。消費税率が上がり、全体的に料金はどの代理店でも上がっているのに、客の旅行予算は下がっている。
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・ここに来て消費税率8%の家計への重みが浸透してきた様子である。客の財布のひもが固い。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・前年に比べてお中元に商品券を使う客が増え、販売量も前年より増えている。
タクシー運転手	来客数の動き	・ボーナス時期であるが、繁華街も人出が多い日が1、2回はあったが、その翌日には閑散として客も少ない状態が続いている。売上としては1乗車当たりの単価が上がり、前年の今頃よりは良い。人出が増えればもっと良くなるが、今の状況では変わらない。
その他サービス〔介護サービス〕（職員）	競争相手の様子	・デイサービスセンターは施設数が増えすぎて、市町村によって新規の認可を認めないところがある。市町村としては、今以上に高齢化することが明白であること、税収が伸び悩んでいることから、民間による高所得者向け介護施設が増加し、デイサービス施設の利用は伸びないとも考えられる。
その他サービス〔介護サービス〕（職員）	それ以外	・新製品が発売されると、レンタル業界では貸出用品の仕入れは増えるが売上は横ばいとなる状況であり、あまり良い傾向ではない。
設計事務所（職員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み受注で、この3か月は仕事をこなすことに必死であったが、依頼されていた業務もこの3か月で終わりつつあり、現場の数は減少してきている。
設計事務所（職員）	お客様の様子	・打ち合わせの場等で、特に景気の良くなるような話は聞かない。

	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・所得の多い人と少ない人とに二分化され、中間層が少なく全体としては売行きが悪くなっている。単価の安い物は売れている。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・自動車産業の多い立地でボーナス増額など景気が良い地域のはずだが、6、7月の動きは鈍く感じる。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・販売量は足踏み状態である。
	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕 (経営者)	お客様の様子	・土地・建物ともに購入意欲の高い客が増えている気がするが、例年並みに戻っただけである。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	単価の動き	・消費税増税後は、10個入りより6個入りといった1箱当たり個数が少ない商品の方へと売筋が移っている。売上としては、税込価格で前年と同じなので、消費税増税分だけマイナスである。
	一般小売店〔自然食品〕(経営者)	販売量の動き	・販売量は前年の90%にとどまり、客の様子も景気高揚感は一服し落ち着いた感じになってきている。
	一般小売店〔生花〕(経営者)	お客様の様子	・家族葬が多くなって御供用の花も減っており、店頭販売に関しても高額の商品の動きは鈍い。財布のひもは依然として固い。
	一般小売店〔食品〕(経営者)	販売量の動き	・ガソリン価格や電気料金の値上がり、消費税増税に伴う日用品の価格上昇に、実質賃金の上昇が追い付かない状況である。売上が大きく下がっているため、この先の景気低迷が心配である。
	百貨店(経理担当)	販売量の動き	・全般的に販売は不振である。お中元の受注状況も芳しくない。台風等の理由もあるが、消費税増税の影響がまだ続いている。
	百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・夏物衣料品や高額品の動きが鈍い。
	百貨店(販売担当)	販売量の動き	・ボーナス支給があつたにもかかわらず販売数量が増加しない。特に上半期の大きな商戦である夏のクリアランスセールでの販売が伸長しない。客の考えは、量よりも質を重視し、長く使える物を選択するようになっているために、販売量を見越して調達した在庫のだぶつきが更なる単価下落に拍車をかけ、売上低迷となる負のスパイラルになっている。
	百貨店(営業企画担当)	販売量の動き	・消費税増税後の反動減から回復傾向にあつたが、7月に入りクリアランス商戦が大苦戦し、景気は後退傾向にあると感じる。近隣の大型商業施設も軒並み苦戦しており、購買意欲の低迷がはっきりと出ている。
	百貨店(販売担当)	お客様の様子	・夏のセール期間の分散化が定着し、買物客が集中する事がなくなったが、それに伴い、今買わなくてはという意欲も薄れている感があり、全体で見てもマイナスに作用している。当社ではセール自体を行わないが、周りを見ても盛り上がり欠ける印象である。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・客1人当たりの買上点数や1品当たり単価は上昇し、前年よりも売上高は伸びているが、来客数は1%ほど前年を下回っている。
	スーパー(総務担当)	販売量の動き	・夏物の食品、アイスクリーム、飲料や夏物雑貨品の売行きが良くない。
	スーパー(商品開発担当)	販売量の動き	・衣料、住居関連商品が非常に厳しい状況が続き、売上高は前年を大きく下回っている。
	コンビニ(エリア担当)	それ以外	・今月の店舗売上は前年同期を下回っている。
	コンビニ(店長)	販売量の動き	・気温が上昇してきているが、飲料の売上が増加しない。
	衣料品専門店〔紳士服洋品〕(売場担当)	来客数の動き	・猛暑日が続いた事で、当店の顧客の中心層である高齢者の来店が減少している。
	家電量販店(店員)	お客様の様子	・消費者は買物をする度に、消費税の増加分トータルの出費がかさむことで、日々増税の影響を感じている。それが販売量や単価の動きに影響しており、それに対する政策の必要性を感じる。
乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・消費税増税に加え、電気料金や保険料等の上昇により支出は増えるばかりである。一方で、収入は一部の人を除けば横ばいか下降気味で、やり繰りが厳しい家庭が多いように見受けられる。	
乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・これまでハイブリッド車一辺倒となっていた受注状況が、車種によってはガソリン車を選ぶ客も増えてきている。受注車両の変化により、在庫車両も変わりつつある。足元の受注量は減少しており、今後の受注は、どの車種に客が興味を示すかにかかっている。	

	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・来客数は前年並みだが、販売量は落ち込んでいる。法人客からの引き合いは多く、保有車両の入替えが活発な事がうかがえるが、個人客は軽自動車を中心に販売台数も少ない。先月に引き続き、個人客への販売が厳しい。	
	その他飲食〔仕出し〕(経営者)	販売量の動き	・業種によって景気の良い悪いが、分かれている雰囲気である。	
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・4月頃は消費税増税前の駆け込みの余韻があり需要が旺盛であったが、その勢いは止まりつつある。景気を喚起するような地元での話題も特にないので、4月頃に比べると宿泊需要は弱くなっている。	
	観光型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・今月は台風の影響により宿泊者数がかなり減少している。それに加えて、前年同期にあった特需の影響と、食堂部門の不振も重なって、前年比・予算比ともに大幅に下回る結果となっている。	
	タクシー運転手 通信会社(企画担当)	来客数の動き お客様の様子	・夜間の利用客が特に激減している。 ・前月は、消費税増税の駆け込み需要の反動が薄れてきているように感じたが、今月に入って、新規契約数の減少、解約数の増加、低価格メニューへの移行などから、基本的に景気は悪化しているように感じる。	
	通信会社(サービス担当)	販売量の動き	・引越しシーズンが終わり、回線の移動需要等がないためか、新規サービスの注文が減っている。	
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・来客数は例年を10%前後下回る水準が続いており、週末の動きもやや鈍い。	
	ゴルフ場(企画担当)	来客数の動き	・今月は入場者数、売上とも非常に低調である。梅雨の時期であり、天候次第で多少変動があると思っていたが、このように悪い状況はあまり先例がない。特に高速道路を利用する遠隔地のコースでは大変な状況である。	
	その他レジャー施設〔劇場〕 (職員)	来客数の動き	・夏休み中の家族連れの客が、例年に比べて少なく感じる。	
	理美容室(経営者)	来客数の動き	・だんだん気温が上がり客が増える時期だが、増えない。	
	美顔美容室(経営者)	来客数の動き	・毎日の暑さのためか、夏休みで子供が家にいるためか、キャンセルが発生したり、予約を入れて来ない人からは連絡もない。	
	美容室(経営者)	来客数の動き	・いつもなら夏休み等イベント前に来店する客が多いが、今月は来客数が伸びていない。	
	美容室(経営者)	お客様の様子	・客層が高齢化してきているので、これだけ暑さが厳しくなると、髪が伸びても外出することができず、来客数は少なくなってきた。	
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・新規での住宅建築の話が少なくなってきた。	
	その他住宅〔住宅管理〕(経営者)	単価の動き	・建築物の1件当たりの単価は上らず、思うほど売上は伸びない。報道で言われているほど景気は回復していない。	
悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・暑さの影響で、高齢者向け商品の動きが弱い。	
	スナック(経営者)	来客数の動き	・例年夏休みに入る前の時期からは、財布のひもは固く締まっていく。	
	パチンコ店(経営者)	販売量の動き	・来客数の動きや単価の動きから、現状は悪いと判断する。	
	理容室(経営者)	お客様の様子	・客からは景気の良い話は聞かない。余分な金を出さず、相変わらず安い店に流れていく。	
企業動向関連 (東海)	—	—	—	
	良く なっている やや良く なっている	化学工業(総務秘書)	取引先の様子	・取引先では仕事を断ったり納期を遅らせたりする会社が多い。業界では暇な会社がない印象である。長い間コストを抑えてきたことによる備品や設備の老朽化で、一斉に修繕・更新実施の号令がかかっているようである。個人も、旅行に積極的で、今まで消費を我慢していた反動を感じる。
		化学工業(人事担当)	受注価格や販売価格の動き	・食料品や日用品の値段が上昇しているが、消費者も徐々に慣れてきたためか販売量の落ち込みはあまりない。また夏のボーナス支給額も全般的に増えており、景気が徐々に回復している指標の一つとなっている。
	窯業・土石製品製造業(社員)	取引先の様子	・新規案件の問い合わせや、至急の製作依頼が非常に多くなっており、普段の倍以上のペースである。まだ売上には結び付いていないが、売上上昇の兆しを感じる。	

	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・仕事の動きが前年よりは良い。物件の引き合いが多く、工場の忙しい時期が続くそうである。
	一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・大手EMS（電子機器の受託生産サービス）の設備投資が盛んであることに加え、中国現地メーカーの設備投資にも勢いがある。為替も円高方向には進んでおらず、利益が確保できている。
	電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・売上は前年度比で伸びており利益も確保されている。目先で大きな懸念材料もないので、当面は今の状況を維持できる。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社オリジナルのパーラーチェアの製品が浸透し始めて、当社の売上は全般的に増加している。
	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ケーブルテレビ局による放送、通信関連の設備投資が増えつつあり、前年対比13%の受注増加となっている。
	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・完成車メーカーが海外で生産する車の台数がやや増えているということで、日本から現地で組み立てるための部品の輸出が伸びている。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・地価の状況は、最寄り駅が特急停車駅の徒歩圏内を中心に上昇基調になっている。特に県北部方面は上昇してきており、景気回復への先取りの動きである。
	会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・長く低迷していた売上が回復し、利益も確保できるようになってきた顧問先が増えている。
	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	受注量や販売量の動き	・第1四半期を過ぎて、下期に向けての案件依頼が増加してきている。
変わらない	食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後は、消費の動きが今一つ活発ではない気がする。増税前の駆け込みに対する反動は少ないという意見が多い中、実際の消費マインドは回復していないと感じる。特に、生活必需品に対する節約志向は顕著である。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今月の受注・販売量は3か月前に比べて横ばいの状況で変わっていない。
	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は増えず、製品価格の改定も行ったが、旧価格での受注がほとんどである。
	電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売量は消費税増税後の下降傾向のまま、あまり変化をしていない。
	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・いろいろな物が値上がりしているという話をよく聞く一方で、いろいろな物を買ったという話もよく聞く。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税による影響は一段落しているが、いまだに景気回復とは実感できない。
	建設業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・状況は月を追うごとに変化している。受注量、全体量は前年と比べて減少しており、少しずつ下向きである。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・7月の一般雑貨の輸送量は前年を4～5%下回っており、消費は低迷している。ガソリンなど石油製品の価格高止まりと7月からの高速料金の実質値上げで、自動車での遠出や旅行等が減っている。
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・荷物量は消費税増税後から回復していない。
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の関係で4月の荷物量は3月よりも減ったが、消費税増税がなければ例年と変わらない流れにあった。今月の荷物の動きは前年並みであることを考えると、3か月前の物量減は消費税増税の影響であったので、それを差し引いてみれば、あまり変わらない状況である。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・地域には自動車産業が多く例年に比べると多少良い状況ではあるが、景気の先が見えない状況という事で不安定さを感じる。
	金融業（企画担当）	取引先の様子	・工場建設、不動産取得など企業による前向きな設備投資の話が出てきている。
	金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・取引先の自動車部品メーカーの生産は消費税増税後も微減で推移している。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売買物件の問い合わせは活発にあるものの、契約には至らない。
不動産業（用地仕入）	競争相手の様子	・土地の入札状況から、景気の状態は変わらない。	
不動産業（管理担当）	それ以外	・ビルメンテナンス業では人手が集まりにくい。従業員が集まりにくいのは、求人の単価が上がっていることで、全体的な景気はやや良くなっている。	

	広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・企業側からの受注量は前年並みで、これといった変化がみられない。	
	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・受注量への消費税増税の影響は、一時的なものではなく持続する。	
	行政書士	受注量や販売量の動き	・貨物の動きが変わらない。	
	公認会計士	それ以外	・大企業は輸出企業を中心に円安で利益が出ている。中小企業は、売上高は増加傾向にあるものの原料高、人材不足等で収益性が悪化している。こういった状況に変化はない。	
	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・新製品が生産に入り、ここ10年来の良い状態となっている。旧来の製品も生産増加に寄与しており、大変忙しい状態である。取引先においても、まずまずの生産を続けているようである。	
やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新設住宅着工件数が減少している。	
	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・これまで7月ごろには仕事量が増えるであろうという希望的な見通しに踊らされてきたものの、目の前の仕事量の少なさを痛感し始めている。前年比でほぼ横ばいから5～10%ダウンの仕事量にしかっていない。	
	輸送業（経営者）	それ以外	・軽油価格の高騰が続くが、単価の値上げが進まない状況である。また、人手不足も深刻な状況で人件費も上がっている。	
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・荷主の荷動きが6%マイナスと悪くなっている。	
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・5月決算法人の消費税申告を7月末に迎えているが、消費税増税後の期間はまだ2か月にもかかわらず、増加した負担の大きさに驚いている。これが年間ベースでみた場合に、更に先行き税率10%となった場合を考えると、かなり厳しくなりそうである。中小業者は、消費税預かり金が資金繰りに組入れられるので、納税時の負担はかなり大変なものとなる。	
悪くなっている	—	—	—	
雇用関連 (東海)	良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・常に人手不足となっている医療・介護分野に加え、建設関連や小売業関係業種においても人手不足感が出てきている。また、採用意欲は全産業において高まっており、求人に対して充足しづらくなっている。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・当地域の有効求人倍率が7か月連続で全国1位となっている。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・取引先企業からの引き合いが増えてきている。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	求人数の動き	・自動車生産は海外輸出が上向きで推移しているが、求人数に対して採用数が不足している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・6月の新規求人数は5月に比べ16.0%減少したものの、今期の第1四半期は、前期より1.3%増加と緩やかに上昇しており、雇用情勢は総じて改善が進んでいる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・建設、介護関連業種やサービス業での求人が堅調に推移している。
		民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・中途採用に対する問い合わせは、前年度と比較して多くなっている。新卒者の採用が充分でなく第二新卒者を中途で採用する動きも出てきている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	周辺企業の様子	・中小企業の経営課題が、「販路拡大」や「人材確保」など前向きな課題へ変化している。
	その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	雇用形態の様子	・求人広告の件数が少しではあるが増えている。また、雇用形態はパート・アルバイトより正社員・契約社員などの採用割合が高くなってきている。	
	変わらない	人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・取引先各社の人材ニーズが堅調である。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・未就労者における求職者が減少している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は、3か月前及び例年に比べても大きくは変わらない。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・例年のとおりではあるが、8月に向けては求人が減り、求職者の動きも少なくなる。
新聞社〔求人広告〕（営業担当）		求人数の動き	・看護・介護、建設業界では常に不足感がある。流通、小売業界では非正規社員採用の動きがみられるが、正規社員としての募集は少ない。	

	職業安定所（所長）	求職者数の動き	・新規求職者は、3か月前と同様に今月も前年同月比で減少している。消費税増税の影響はあまり感じられない。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ある程度ボーナスも支給されており景気は現状を維持していると思われるが、例年、ボーナスの時期であれば求職者は前月より若干増加するが、今月は前月より減少している。また、前年同月と比較しても減少している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、全体的には3か月前と比較すると若干ではあるが減少している。一方、飲食業関係の求人は活発な状況である。
やや悪くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・7月に入り、求人数が前年割れになっている。また、今月の求人数は3か月前と比べても90%強となっていることから、景気の減速感が出始めている。
	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・7月に入り求人数の伸びが鈍化しているように感じる。
悪くなっている	—	—	—